社会保険稲築病院 広報誌

No.23 2017.12

Hot time

ほっとたいむ

◆INDEX

1.新体制で支える地域医療
2.オレンジサロン「ほっとたいむ稲築」
3.地域包括ケアシステム推進協議会
4.おじゃまします「医療相談室」

医療理念

1.患者中心の医療
1.医療の質の向上
1.地域社会に合った手づくりの医療
1.安心と信頼を持たれる病院づくり
1.経営の安定と職員満足度の向上

ご自由にお持ち帰りください

一般社団法人　福岡県社会保険医療協会
社会保険稲築病院

社会保険稲築病院外来診察一覧

平成29年12月 1日現在

内　科

受付時間　午前 8:30～11:30

※学会等の出張の為、休診または代診とさせて頂くことがあります。院内掲示でお知らせ致しますのでご注意下さい。

内科外来	月	火	水	木	金	土
診療担当医師 午　前	定村　後藤 松尾	荒木　担当医 後藤	定村　担当医 松尾	定村　後藤 松尾	定村　松尾 担当医	当番医（毎週）
午　後	休 診	休 診	休 診	休 診	休 診	
午　後	神経内科	－	甲状腺外来	泌尿器	－	

整形外科

受付時間

		月	火	水	木	金	土
新患	（午前）	8:30～11:00	8:30～11:00		8:30～11:30	8:30～11:30	8:30～11:00
	（午後）	13:30～14:00	13:30～14:00	13:30～16:00	13:30～16:00	13:30～15:00	
整形外科外来		月	火	水	木	金	土
診療担当医師 午　前		中島（1・3・5週） 西村（2・4週）	弓指（1・3・5週） 邑本（2・4週）	休 診	和 田 9:00～12:30	平 川	当番医（毎週）
診療担当医師 午　後		中島（1・3・5週） 西村（2・4週）	弓指（1・3・5週） 邑本（2・4週）	松久保 14:00～17:00	和 田 13:30～17:00	平 川	

※土曜日は交代制で診療いたします。　※毎月第3金曜日は休診となります。

眼　科

受付時間（新患）　［火・木・土］午前 8:30～10:30／［金］午後 13:30～15:30

眼科外来	月	火	水	木	金	土
診療担当医師 午　前	休 診	平 田	休 診	吉 澤	休 診	宮 本
診療担当医師 午　後		休 診	予約検査のみ	休 診	成 瀬	

※新患の方は、なるべく早めの受付をお願いいたします。　※宮本医師の第3土曜日は休診となります。

皮 膚 科

受付時間　午前 8:30～11:30／午後 13:30～16:00

皮膚科外来	月	火	水	木	金	土
診療担当医師 午　前	辻 田	塚 本	辻 田	塚 本	辻 田	辻田・塚本 （交代制）
診療担当医師 午　後	塚 本	辻 田	辻 田	休 診	塚 本	

その他　◎糖尿病教室を、　毎週月曜日 午前10:30～11:30に開催しております。
◎神経内科外来を、毎週月曜日 午後13:30～16:00に診療いたします。受付時間：午後13:00～15:00
◎甲状腺外来を、　毎週水曜日 午後13:30～16:30に診療いたします。受付時間：午後13:30～16:00
◎泌尿器科外来を、毎週木曜日 午後13:30～15:00に診療いたします。受付時間：午後13:30～14:30

※桃色は女性医師です。

一般社団法人　福岡県社会保険医療協会
社会保険稲築病院
〒820-0207 福岡県嘉麻市口春744-1　（代表）TEL 0948-42-1110
FAX 0948-43-0389　URL http://www.inatsukihospital.jp

ほっとたいむNo.23　2017年（平成29年）12月 編集・発行　社会保険稲築病院　広報委員会

新体制で支える地域医療

社会保険稲築病院が目指す医療とは？

団塊の世代が後期高齢者（75歳）になる2025年…嘉麻市が限界集落として名を連ねている現状に、どのように向き合うか。変化が求められる時代にあっても、地域と共に歩む姿勢は変わらない。

平成29年11月より院長に定村伸吾が就任し、新体制となった今、これからの目指すべき方向性を考えます。

院長　**定村 伸吾**

平成29年11月1日より、篠崎前院長に代わり院長を拝命しました。29年間の長きにわたり地域医療に尽くしてきた、篠崎前院長の後を継ぐにあたり、その重責にあらためて身の引き締まる思いです。これまで通り、地域の皆様から愛される稲築病院を目指して、職員一同全力で努力して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

今回の院長就任にあたり、当院の基本方針を挙げてみました。これまでも行っている、当然のことばかりですが、改めて列記してみました。

社会保険稲築病院 ●基本方針●

1. 安心で快適な医療を提供する。
2. 初期診療から、回復期、慢性期、終末期まで継続した医療を提供する。
3. あらゆる病気に対し最善の初期対応を行う。
4. あらゆる病気に対し症状緩和のための最善の援助を行う。
5. 寝たきり・寝かせきりにしない看護、介護、リハビリを実践する。
6. 地域の行政・医師会と協働し住民の保健と福祉に貢献する。
7. 職員の働き方を再構築する環境を整備する。
8. 向上心とやりがいを持てる職場づくりを行う。

稲築病院は高度急性期病院ではありません。しかしながら私たちは病院の当然の責務として、患者様の生命を救うため最善を尽くします。その中でより高度な医療が必要な場合は、速やかに連携病院にお願いし、また急性期治療を終えた後は、当院でのリハビリや生活支援を行います。回復期から慢性期の医療を通じて、患者様の尊厳ある生活を支援し、介護部門を利用して可能な限り在宅生活を援助します。また在宅での生活、療養が困難になった方に対しては、慢性期医療や緩和ケア、そして人生の最終ステージを過ごすための医療と介護を提供してまいります。病気だけでなく患者様のこころのケア、生活のケアを共に考えていく病院であり続けたいと考えています。医療制度を取り巻く環境はここ数年大きく変化しており、特に研修医制度や専門医制度の見直しにより、若い医師の教育体制が充実する一方、地域の中小病院へ勤務する医師は激減し、医師数も都会に集中しています。いわば地方切り捨てと言える一連の流れの中で、私たちの稲築病院も例外ではなく、医師不足が続いています。これにつきましては患者様、介護サービス利用者様にも、大変なご迷惑、ご不便をおかけしており、大変心苦しく思っております。今後も随時、九州大学、久留米大学、産業医科大学などに医師派遣をお願いするとともに、地域医療に関心がある医師を集め、よりよいサービスを提供していける環境を作りたいと考えています。稲築病院は、嘉麻市、特に稲築地区の中核として、地域の皆様とともに、皆様に寄り添って、「稲築病院があるから安心して生活できる」と言っていただけるよう、より良い医療・介護サービスの提供を続けてまいります。これからも稲築病院を可愛がっていただき、ご指導、ご鞭撻いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

病院を地域の皆さんの集えるコミュニティへ

看護部長
青柳　由佳

ここ九州では最近、熊本地震、九州北部豪雨と災害が続き、日常の生活が一変してしまう自然災害の脅威に心を痛めております。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興を願っています。

さて、私事ですが、平成24年に看護部長に就任し、早いもので5年経過いたしました。歴代看護部長、先輩諸姉が築かれた看護部を任され、患者様とのふれあいの看護、地域の皆様に愛される病院を目指して、ただひたすら走ってきたような気がしています。この間、多くの方々に支えられ育てていただいた私が、今こうして働いていられるのも職員だけではなく、患者様、地域の皆様のおかげだと深く感謝しています。

今、日本は少子高齢化の進展により、医療・保健・福祉・介護は、大きく変わろうとしています。同様に稲築病院も変化の時を迎えています。篠崎前院長と先生から多くのことを学び、また看護部を支えてもいただきました。地域の皆様のお役に立ちたいというその気持ちは変わることなく、定村新院長と新しい稲築病院を築いていきたいと考えています。

嘉麻市は高齢者世帯や独居高齢者は増加している反面、全体の人口は減り過疎化しています。このような時代だからこそ地域のつながりが大切になります。稲築病院も医療・介護という基本は大切にしながらも、病院という枠に捉われず、地域のコミュニティの場、ホットステーション的な役割を担っていくことができればと考えています。定村新院長と共に全職員一丸となり、地域に根差した信頼される病院づくりを目指して一層努めてまいりたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

患者中心の看護で取り組んでいきたい

副看護部長
佐藤　千代美

今年は週末の台風に見舞われることが多く、一週一週ごとに寒さが厳しくなるようです。いよいよ冬の到来です。

今年7月より副看護部長に就任しました佐藤千代美です。稲築病院には平成3年11月に入職しましたので、今年で26年目になります。

ご存知の通り、篠崎前院長が10月で退職しました。このことは私たち職員にとっても、一大事です。しかしこの日が来ることは、早かれ遅かれわかっていたことです。

今、稲築病院だけでなく、医療界、いや社会が大きく変革の時を迎えています。このことを、ピンチではなくチャンスととらえ、冬の向こうには春があると信じて、前向きに進んでいくことを考えていきたいと思っています。

医療界では、地域包括ケアシステムが進められています。住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供され、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく生活できるようになることが考えられています。しかし、当院を取り巻く地域では、高齢者世帯が多く、独居や老々介護の家族も多い状態にあります。入院して病気はよくなったが、体の動きが悪くなったり、食事がうまくたべられなくなったりすると自宅へ帰ることが困難になります。まずは治療をするとともに生活環境をできるだけ自宅に近いようにし、全身の機能を低下させないようにケアすることを考えたいと思っています。

今まで、患者中心の看護を目指し、職員の教育に取り組んできました。患者中心ということは相手の立場に立って考え、行動することですが、なかなかこれが簡単なことではありません。これには、経験と自己の振り返りが重要となってきます。看護師は、一番患者さんの近くにいます。相手の言葉に耳を傾け何に困っているのか、何を望まれているのかを聴き取りケアできるようになることが住み慣れた地域への生活に早く返してあげられる近道だと考えます。

スタッフが基盤を支える体制づくり

医療技術部長
伊﨑　精一

平成29年8月1日付で、臨床検査技師長兼医療技術部長を務めさせていただいております伊﨑です。病院で働く縁の下の力持ち、裏方が医療技術部です。皆さんはどのような職種が働いているのかご存知でしょうか?

医療現場を支援する部門として、国家資格を有した医療技術者が三元的に組織化された部門が医療技術部門です。この医療技術部門は、5つの部門（薬剤部、放射線部、臨床検査部、リハビリテーション部、栄養科）、7職種（薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、管理栄養士、栄養士）で構成されています。　臨床検査部を例に挙げると、患者様の血液や尿などの検体を正しく結果が出るよう測定したり、患者様の心電図検査や超音波検査を行ったりと、診療の手助けとなる情報を医師に提供しています。他部門にも言えることですがその仕事内容は多岐にわたっており、病院内では裏方なのかもしれませんが、患者様により良い医療を提供するためにはなくてはならない部門であると言えます。

私は、当協会の医療理念である「患者中心の医療」「医療の質の向上」「地域社会に合った手づくりの医療」「安心と信頼を持たれる病院づくり」を念頭に置き、患者様により良い医療を提供できるよう、めざましく進歩する医療技術に合わせ、高い専門性を互いに尊重し維持できるよう切磋琢磨して診療現場への支援に励んでいます。また、患者サービスの向上と地域に密着し対話のできる医療技術部門にしていくことを目標としています。

5つの部門が一致団結し、ますます地域の皆様のお役にたてるよう、精進していきたいと思っておりますので、今後とも稲築病院をよろしくお願いいたします。

そこで決意も新たに、医療技術部の基本方針ならびに各部門の方針をご紹介いたします。

医療技術部

● 基本方針 ●

医療技術の専門職として、個々の技術の向上と業務の効率化を図り、安全で質の高い医療を提供いたします。

各部門方針	
薬剤部	正確かつ迅速な調剤に努め、適正な使用に関する助言、情報提供を行い、患者様との信頼関係を構築します。
放射線部	地域住民の画像診断業務等を通じて、患者様一人ひとりの健康保持・増進の貢献に努めます。
臨床検査部	「ジェネラリストの中にスペシャリストを」をモットーに、正確かつ迅速に検査結果を提供できるよう努めます。
リハビリテーション部	PT・OT・ST それぞれの視点に立った、生活を含めた活動参加に向けたリハビリテーションを多職種協同で行います。
栄養科	専門性を生かし、多職種と共同で栄養管理を行い、患者様の疾病に適した安全で美味しい食事の提供、さらに入院中だけでなく外来、自宅療養までサポートして行けるように努めます。

地域住民の皆さまと共にある病院を目指して

事務長
高木 伸隆

事務長の高木伸隆（たかき のぶおき）と申します。

社会保険稲築病院は、11月1日より院長に就任した定村新院長の下、新体制として出発することになりました。改めましてよろしくお願いいたします。

さて、近年医療・介護を取り巻く制度や環境は、人口減少・少子高齢化の進展とともに急速に変化しています。我々医療や介護に係わる立場にある者でさえその変化に対応するのに苦慮しているところでもありますし、ましてや地域の皆様におかれましては、いったい何が起こっているのか理解しがたいのではないかと思います。

そのような中、来年4月には医療と介護の同時改定が行われます。いったいどのような内容になるのか、全国の医療介護の従事者が非常に注目している状況であり、その内容いかんによっては、当院の診療、介護体制も変化に対応していかないといけないかもしれません。しかしそれは地域の皆様により良い医療・介護を提供するための対応であり、地域包括ケアシステムとして病院、施設、行政、自治会等で連携、協力し合いながら地域全体で皆様を支えるための対応になると考えます。そしてそのためには、皆様のご理解とご協力が必要だと考えます。これから様々な情報が関係機関を通して皆様の耳に入る機会が増えてくると思いますし、当院からもできるだけ分かりやすい形で情報発信をして行きたいと思います。

当院は、
一、患者中心の医療
一、医療の質の向上
一、地域社会に合った手づくりの医療
一、安心と信頼を持たれる病院づくり
一、経営の安定と職員満足度の向上
という理念を掲げています。

冒頭申し上げましたように当院は新体制となり、診療体制も変わる部分がありますが、地域住民の皆様と共に在る病院としての責務を果たすべく、引き続き職員一丸となって取り組んでまいりたいと思います。今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

嘉麻市民に
「ほっとたいむ稲築」を
お知らせしよう！

嘉麻市オレンジサロン『ほっとたいむ稲築』
市民公開講座『これできっと長生きできる』

去る11月19日（日）に山田生涯学習館にて、「第3回健康寿命を延ばすための市民講座」が開催されました。嘉麻市では、認知症予防施策として地域の病院や施設にオレンジサロンを委託運営しています。最初は1ヶ所から始まったこのサロンも現在では11ヶ所となりました。

当院でも、平成28年度より毎月1回のオレンジサロン『ほっとたいむ稲築』を開催しており、地域住民のみなさんにも少しずつ浸透してきたのではないかと自負しています。当院独自の3部構成によるオレンジサロンは、いろいろな事が学べると評判です。病院職員によるミニ講座、リハスタッフによる予防リハビリテーション、みなさんがわいわいとくつろぐことができる喫茶コーナー、どれも魅力いっぱいです。特に予防リハビリテーションでは年に3回体力測定等も行われ、参加者はご自分の筋力がついてきたと実感されているようです。

今回、市民講座では他の施設や医療機関等で行われているオレンジサロンも集結し、地域住民の皆さんにもっと知っていただくための特設ブースが設置されました。

当院でも、是非との取り組みを地域住民の方々にもっと知っていただこうと、昨年1年間で行われたミニ講座を一冊の冊子にして、配布しました。当日は、まだオレンジサロン『ほっとたいむ稲築』を知らない方々にも手に取って持ち帰っていただくことができました。

「いろんなことをしようとやね～。」
「どんなことができると?」

地域の皆さんの質問に応対しながら、来年度はもっといろいろな事ができないかと、スタッフ一同楽しい時間を過ごさせていただきました。

地域包括ケアシステムを構築するには？

～稲築・碓井地区会議報告～

去る11月17日(金)、地域包括ケアシステムを構築する為の推進協議会が、当院で開催されました。この推進協議会は、飯塚医療圏を5つのブロックに分け、夫々の基幹病院が中心となって話し合いを進めていく為、「5ブロック会議」と呼ばれています。29年度最初の会議となった今回は、『望む場所で最期まで過ごす事が出来るか』という議題でグループワークが行われました。各々のグループは、医師・歯科医師、保健師・看護師、理学療法士・作業療法士、社会福祉士、行政職員等、違う職種のメンバーで構成されました。

具体的には当院と西野病院から、夫々異なった理由により、自宅で安心して過ごす事ができない方の事例が提示され、その方が地域で過ごす事ができるようになる為に必要な事は何か、足りないものは何か、という視点でグループワークを進めました。

グループワークでは、どのグループも白熱した議論が行われました。2つの事例の問題点は異なっていましたが、最期の時を自宅でどう過ごすのかというものでした。グループワーク後の発表では、単に自宅が安心して生活するだけではなく、最後の思い出作りをすることができるような手助けの方法もあるのではないか、というような意見もありました。

今後、地域包括ケアシステムを構築するという大きな役割を担っている会議の中で、どのような議論を行っていくべきなのか、まだまだ模索中の段階です。しかし、飯塚医師会を始め、行政と消防、警察、医療機関や施設、地域の福祉サービス事業者が一同に会し、よりよい地域にするためにはどうするかを考えていく今の作業が、未来に繋がっていることは確かではないかと感じています。

今後、地域の民生委員の方々や関係機関と共に、住民が望んだ場所で生活し続けることができる仕組みを作っていきましょう。

おじゃまします！ 医療相談室

今回は当院の医療相談室にお邪魔しました。医療相談室には4名の医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が勤務しています。『地域連携』という言葉がクローズアップされている今、どのような仕事をされているのでしょうか？今回は医療ソーシャルワーカー課長井上氏に話を伺いました。

Q 医療相談室ではどのような仕事をされているのですか？

A 当院では、入院時から退院まで患者様やご家族の様々な相談をお受けしています。

相談と一言でいってもいろいろですが、病院の全てのスタッフと共に、患者様やご家族がご自身で問題解決ができるよう、お手伝いをしています。

Q 現在、「病院はすぐに退院させられる」というような話もよく聞きますが、相談すれば長く入院できたりするのですか？

A 入院期間については主治医が患者様の治療状態をみながら決定しているので、長く入院させてほしいというような相談はとても難しい問題です。私たちは、患者様やご家族がどうしても『長く入院したい』と考えているかという点についてしっかりとお話しを伺っていきたいと思います。本当の相談は『一人暮らしでとても自宅に帰れないので、安心して世話をしてくれる場所がほしい』ということかも知れません。その場合は、病院ではなく安心して生活できる場所をしっかりと説明していきます。

Q 患者様やご家族が抱えている漠然とした問題を、話をしていきながらはっきりさせていくということですか？

A はい。そういう事も多いです。医療制度や介護制度は昔に比べるととても複雑になってきています。患者様やご家族の不安を少しずつ取り除き、よりよい方向を一緒に探していく事がとても大切だと思います。

Q 地域連携という言葉が頻繁に聞かれるようになりましたが、どのような事をされていますか？

A 患者様やご家族の相談に応じていくためには、当院だけの力ではとても足りません。筑豊地域の様々な関係機関とも情報交換や交流を行って、地域全体でみなさんを支えていく仕組みづくりを行っているところです。

超高齢社会の中、地域で私たちを支える仕組みができ、窓口でしっかり話を聞いてもらえるのであれば、とても心強いと感じました。「今後はもっときめ細かく相談に乗ることができる体制を病院内でも考えています。」との事。楽しみにしています！